

学校教育計画（平成28年度～平成31年度）

神奈川県立高津養護学校長

次のとおり学校教育計画を設定しました。

1 学校のミッション

知的障害教育部門の特別支援学校として、児童・生徒の自立と社会参加に向け、一人ひとりの障害の状態に応じた就労支援の取組を充実させ、小学部・中学部・高等部を通して、キャリア教育推進のために、一貫した教育を行う。加えて、アセスメントを踏まえた授業実践の取組を一層推進し、日々の授業改善に取り組む。

また、共生社会の実現に向け、センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒への教育ニーズに応じた効果的な支援を行うとともに、これらの学校と交流及び共同学習等を通じた、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒との相互理解を図る。

2 学校教育目標

- 自立と社会参加を目指し、小学部から高等部まで、一貫性のある教育を実践する
- よりよく豊かに生きる力を育むために、児童・生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援を行う
- 共生社会実現に向け、インクルーシブな社会変革へ貢献する
- 教職員一人ひとりが専門性の向上を目指す
- 創意工夫し、改善し続け、地域や保護者から信頼される学校となる

3 計画作成時点での課題

- 児童・生徒の障害の状態と発達の段階に応じた、小学部から高等部まで系統的・発展的な指導内容の編成・工夫・改善が必要である。
- 本校での「実態の捉え方」（アセスメントの方法）を考案し、全職員で共有し、児童・生徒への指導・支援に活用できるようにしたい。
- 進路指導・支援の充実に向け、「キャリア教育」について本校での捉えを明確化するとともに、社会的・職業的自立を意識した授業実践が必要である。
- センター的機能の充実のために、相談支援体制の整備が課題である。
- 信頼と安心安全な学校づくりの観点から、私費会計の校内システムを再構築する必要がある。
- 多様な障害のある児童・生徒の教育ニーズに対応すべく、教員の専門性の向上が必要である。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加を目指し、児童・生徒の障害の状態や発達段階に応じた小学部から高等部まで系統的・発展的な指導内容を編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導内容系統表」を作成し、個別教育計画に反映させ、日常の授業に結び付ける。 ・「いい授業推進」という視点での授業研究・授業改善を定例化する。
2	児童・生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援を全職員で組織的に実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校での「実態の捉え方」を考案し、共有化する。 ・「チーム支援」という視点で、「予防的ケース会議」の開催を定着化する。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる生活の充実をめざし、「よりよく生きる力を育むこと」・「キャリア教育の推進」について、小学部から高等部へ一貫した取組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒、個々の「よりよく生きる力」を「QOL」の視点で個別教育計画等で具現化する。 ・「キャリア教育」の指導内容を、「社会生活力」として展開する。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ社会の実現をめざし、地域社会への障害の理解啓発を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が「地域社会とつながり合う」教育活動を更に企画する。 ・「地域ネットワーク推進会議」に「インクルーシブ推進」を目的に据えた活動を展開する。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心な指導体制、管理体制を構築する。 ・教職員の実践力と専門性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザイン（誰もが分かりやすい、使いやすい環境）の視点で環境整備を行う。 ・校内研修会や学習会を活性化させる。 ・私費会計の校内システムを再考し、全職員が確実に実行できるようにする。